

2015/2016 年米国産トウモロコシ輸出貨物品質レポート

概要

2016 年 4 月にアメリカ穀物協会は 5 年目になるトウモロコシ輸出貨物品質レポートを公表しました。このレポートから、2015/2016 年の輸出貨物について全体に見たところ、すべての等級ファクターにおいて U.S.No.2 等級かそれ以上であったことが示されました。以下に調査のハイライトをまとめました。

輸出貨物での等級ファクターと水分含量

- 容積重の平均は 57.3 ポンド/ブッシェル(73.7 キログラム/ヘクトリットル)で、過去 4 年間の平均より低かった。しかし今年のサンプルの 95 パーセントは U.S.No.1 の格付けの範囲内にあり、一般的に良い品質であったことを示している。
- BCFM は 2014/2015 と同様、平均で 3.0%で、U.S.No.2 の最大限界値と同じであった。予想される通り、BCFM は収穫から輸出地点までに市場を通る間に 0.8%から 3.0%に増加した。
- 総損傷が 2014/2015 年より低レベル(平均 1.9%)であることが示され、99%のサンプルが U.S.No.2 の範囲に入っていた。
- 熱損傷はほぼ無視できる程度で、市場のチャンネルを通じてトウモロコシの乾燥と保管が良好に管理されていたことが示された。
- 輸出貨物サンプルでの平均の水分含量は 14.4%で、2014/2015 年より低いが、過去 4 年平均と同じであった。

輸出貨物での化学組成

- タンパク質含量の平均は 7.8%(乾物ベース)で、2014/2015 年の値や 2015 年の収穫時の平均値より低かった。
- 平均のでんぷん含量は 73.9%(乾物ベース)で、2014/2015 年の値、過去 4 年平均値、2015 年収穫時の平均値より低かった。
- 油分含量の平均は 3.9%(乾物ベース)で、2014/2015 年の値と似ているが、過去 4 年平均値と 2015 年収穫時の値より高かった。
- 太平洋岸北西部 ECA(輸出拠点地域)のたんぱく質含量(8.4%)はガルフ(7.7%)や南部鉄道網(7.7%)より高かった。たんぱく質含量の平均値は、過去 2 年の値と過去 4 年の平均値において、太平洋岸北西部 ECA がほかの 2 つの ECA より一貫して高い値であった。

輸出貨物での物理的特性

- 平均のストレスクラック(6%)は2014/2015年と過去4年平均値(12%)より低かった。大部分の輸出サンプル(96.8%)のストレスクラックは15%以下で、取り扱い中の破損の比率が低かったと思われる。
- 穀粒容積と百粒重について、2015/2016年は2014/2015年より低かった。これは2015/2016年の輸出トウモロコシの穀粒が前年より小さかったことを示している。
- 2015/2016年と過去4年平均について、ガルフ ECA が3つの ECA の中で最も高い真の穀粒密度を持っていた。
- 真の穀粒密度 (1.275 g/cm³) と硬胚乳(80%)が低かったことは、2015/016年が過去の年よりトウモロコシがやわらかかったことを示している。
- 2015/2016年の完全粒(89.5%)は2014/2015年の値と過去4年の平均値より高かった。相対的に高い完全粒は、巢取れるクラックが低かったことと相まって、保管には適していたと思われる。

輸出貨物のマイコトキシン

- 試験した2015/2016年のすべてにおいて、米国食品医薬品局(FDA)のアフラトキシンの規制レベルである20ppbより低かった。
- 試験した輸出貨物サンプルの100%が、DONについてのFDAの勧告レベル(豚とそのほかの動物に対して5.0ppm、家禽と牛に対して10ppm)より低かった。